心臓血管放射線研究会学術研究助成
学会報告記

氏名　　富澤　信夫

所属機関名（発表時）　　新東京病院　放射線科

発表学会名　The 9th Congress of Asian Society of Cardiovascular Imaging （Moderated Poster）

学会開催年月日　2015年　6月　11日～　13日

演題名　The Influence of Liver Steatosis on Coronary Artery Disease

優秀論文賞受賞　　無

学会報告記（８００字程度・写真1枚）

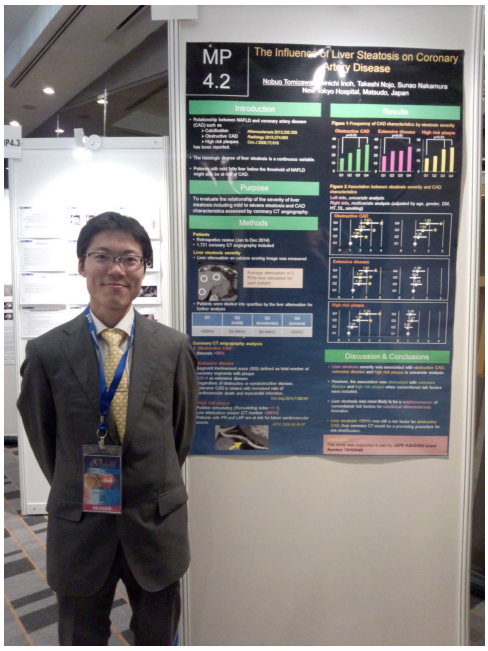
締切：2015 年 7 月 31 日

◇本　文

このたびはマレーシアのクアラルンプールで行われました、第 9 回アジア心血管画像学会の参加に際しまして、日本心臓血管放射線研究会から助成をいただきましたことを御礼申し上げます。会場は Le Meridien という KL Sentral 駅に直結するホテルで開催されました。

Modereted poster session での発表でしたが、ポスター展示の前で口演をする形式で、壇上に立つよりも聴衆との距離が近い点では発表しがいがあると感じる一方で、発表時にポスターを見て発表してしまうと聴衆の反応を見ながら話すことができないという難しさも実感いたしました。会場には開催国マレーシアをはじめ、日本や韓国など様々なアジア圏の国々からの先生方が集まり、座長を含めて活発な討議ができました。

今回の学会では TAVI や心筋イメージングなどの最先端の分野に関する演題やシンポジウムがあった一方、古典的であるが放射線科医は特に知っておかなくてはいけない被ばく量に関するセッションもあり、幅広い知識に触れることができました。オーストリアの先生が冗談交じりで「救急外来に来る患者さんはまず CT のトンネルを抜けてから診察するんだよね」と話された点は、当院でも当てはまることであり、画像検査の適正化は万国共通の課題であると痛感いたしました。

その他にも、サラセミアの画像診断に関するセッションや演題発表があり、東南アジアらしさを感じる一方、日本でも稀ではあるが、地域性に存在することが知られている疾患でもあることから、しっかりと勉強せねばと気づかされました。

学会会場はマレーシア中心部からもほど近い距離にあるため、ペトロナスの博物館やツインタワーといった名所も帰国前に立ち寄ることができ、大都市・クアラルンプール近代化の原動力にも触れることができました。なお、日の出は 7 時前と遅めのため、朝 jog をする場合は 6 時 45 分の出発であれば安心です。今回は大変貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。